

クニマスはなぜ 生き残っていたのか

田沢湖への玉川の酸性水導入により
一九四〇年に「絶滅」とされていた田沢湖固有のサケ科のクニマス。
ところが、二〇一〇年、山梨県西湖で発見される。
クニマスはなぜ生き残っていたのか…。

「田沢湖の漁業と ヒメマスの歴史」に 答えがある



好評につき期間を延長します

12月15日(日)

企画展開催期間

令和6年

10月5日(土) ~ ~~11月24日(日)~~



田沢湖クニマス未来館

開館時間 / 午前9時～午後4時 ※毎週火曜日は休館日



@KUNIMASU.MIRAI

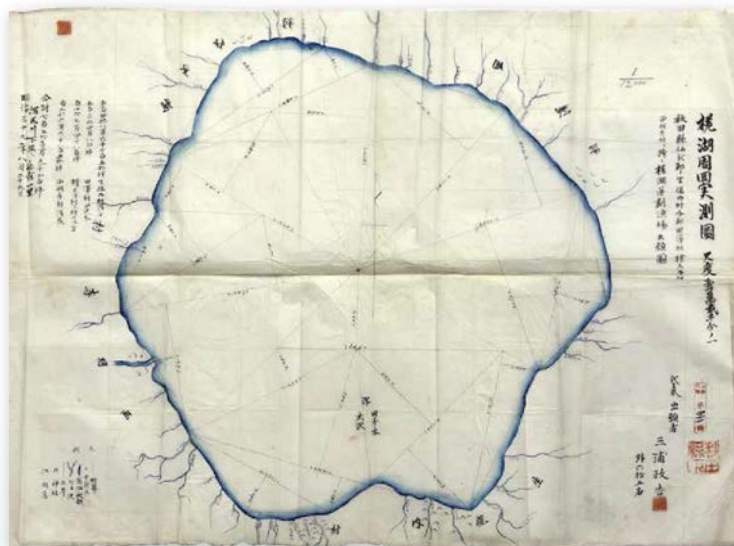
田沢湖クニマス未来館
Instagram



仙北市ホームページ
「クニマス情報」

※田沢湖クニマス未来館企画展※ **クニマスはなぜ生き残っていたのか**

ヒメマスは田沢湖の在来ではなく、明治時代中期に田沢湖のふ化場で人工ふ化されて、稚魚が湖に放流されていました。当時、ヒメマスの人工ふ化は北部日本の陸水域における水産増殖事業の主なものの一つでした。このために、田沢湖では湖畔にふ化場が建設され、事業の主体として榎湖漁業組合が結成されました。榎湖は田沢湖の別称で、組合は田沢湖の漁業を担ってきましたが、酸性水導入を契機として、その歴史に幕を閉じました。そして、これが山梨県西湖でクニマスが生き続けていたことと深く関係があるのです。田沢湖の漁業とヒメマスの歴史についてぜひ皆様にご覧いただきたいと願い、この企画展を開催いたしました。



榎湖周囲実測図

田沢湖を測った漁師たち

区画漁業権の免許対象となる漁場(田沢湖)の面積を測量し図示したもので、相当な精度。延べ39人が作業に従事し麻縄を用いて距離を測ったものと思われる。



ヒメマスのルーツ

ヒメマスは阿寒湖から支笏湖へ、そして田沢湖へと移殖された。

ヒメマスを知る、学ぶ



中禅寺湖の実験河川を産卵のために遡上するヒメマス親魚の群れ (写真 松沢陽士)

INFORMATION

■交通のご案内

- 電車・バス／JR田沢湖駅より羽後交通バス「田沢湖一周線」大沢バス停下車、徒歩2分(所要時間約30分)
- タクシー／JR田沢湖駅より約20分

■入館料金表

大人：高校生以上 小人：小・中学生

クニマス未来館		思い出の湧分校との2館共通券	
個人	大人	500円	800円
	小人	300円	400円
個人JAF会員	大人	400円	600円
	小人	200円	300円
団体(20人以上)	大人	400円	600円
	小人	200円	300円

※個人JAF会員はJAF会員証提示で5名まで割引
※仙北市民／6歳未満は無料です

田沢湖クニマス未来館からは
神秘の湖・田沢湖と
四季折々美しい山々を望めます



「思い出の湧分校」は昭和49年に廃校となった校舎を修復し一般公開した施設で、古き良き時代の空間に癒されます。

お問合せ

田沢湖クニマス未来館
〒014-1203 秋田県仙北市田沢湖湯字ヨテコ沢4

TEL 0187-49-8131 FAX 0187-49-8151
<https://www.city.semboku.akita.jp/sightseeing/kunimasu.html>